

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372800189		
法人名	有限会社 フォーユー		
事業所名	グループホーム さくらの家		
所在地	岡山県小田郡矢掛町矢掛2532-1		
自己評価作成日	平成24年5月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3372800189&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル
訪問調査日	平成24年6月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が住み慣れた環境の下で、地域の伝統行事に参加、見学することで昔の記憶を呼び戻したり、季節の移り変わりを肌で感じ取れるよう、積極的に外出レクの機会を設け、気分転換や地域の方々との触れ合いを図っています。ホールから続くウッドデッキを活用し、天気のよい日には一緒に食事をしたり、お茶を飲んだりと開放的で明るい雰囲気作りにも力を入れています。ホール内では、音楽セラピーの一環として、オルゴール療法を取り入れ、精神安定を図りながら、日々の生活を支援しています。また、医療面においては、ご利用者様やご家族様が安心して日々の生活が送れるよう、隣接した協力病院との連携を図り、対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内には、シンボルツリーの桜の木のある庭や畑があり、開放的なウッドデッキでつながり、季節の変化を楽しむ事ができる。住み慣れた地域で生きがいを持って暮らしていけるように、職員全体で取り組み、行事や催しも多く計画されており、地域の人達、家族と一緒に楽しんでいる。行事の時の食事やケーキなどは、職員が力を合わせて手作りし、コミュニケーションの良さを発揮している。職員の年齢層が、10代から60代まで幅広く、お互いに教えたり、教えられたり、仲が良く家庭的な雰囲気になっている。よく話し合いがなされる事で、日々の介護の質の向上にもつながっている。隣接する協力病院の24時間体制の応援で、医療面からも安心な暮らしの支援ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議や全体会議などの場で再確認し、理念を共有できるようにしている。	「安心・安全・尊厳」を守る姿勢が、日常の業務の中で、その都度話し合われ、徹底されている。「利用者が幸せを感じる事ができるような支援」という理念を意識しながら、職員全体で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事に参加して、地域の方々と交流を深めている。	住み慣れた地域の伝統行事である大名行列や盆踊りに参加し、地域の人達との交流を図っている。公園でお喋りしたり、養護施設からの訪問もあり、子供達との交流もある。花火の時には、近所の方も参加して下さり、日常的な交流に努めている。	これまで培ってきた事業所と地域とのつながりを、さらに発展させていって欲しい。今後は小・中・高生等の若い世代の啓蒙も視野に入れ、地域のリーダーとなり必要とされる役割を担っての活動に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の認知症サポーター養成講座に参加し、地域の方々に向けて理解や支援が提供できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状報告を行い、参加メンバーからでた意見や要望を再度話し合い、サービスの向上につなげられるよう努力している。	二か月毎に、町職員、民生委員、家族などの参加で開催されている。地域での事業所の役割も明確にされ、認知症サポーター養成講座に取り組んでいる。甘茶の会など、利用者が喜びを持って生活できるような催しも提案され、開催されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出や電話連絡などの際に、役場の担当者と情報交換を行ったり、助言をいただいている。	連絡を密に取り、地域の行事など、声をかけてもらっている。認知症サポーター養成講座を通じて、消防団との繋がりもできた。一緒に取り組んでいく協働関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全管理委員会を設置し、定期的に会議を行ったり、勉強会をして理解を深め、ケアの実践に取り組んでいる。	安全管理委員会を含めて、6つの勉強委員会があり、様々な場面から職員の共有意識を図っている。身体的な拘束だけでなく、言葉や態度による抑圧がないように話し合われ、職員一人ひとりが内省し、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待防止についての理解を深め防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見人制度を利用されておられる方がいる為、学ぶことが出来、活用もできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文面を見ながら解りやすい説明を心掛けている。不安や疑問に思うことがあれば理解・納得されるまで話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、スタッフから声をかけるようにし意見や要望を聞くようにしている。それらの意見は会議などで話し合い、運営に反映できるようにしている。	月一回、お便りや写真を同封し、日々の暮らしの様子を伝えている。遠方の家族や、足が遠のいていく家族に対しても、積極的に案内や、声かけをして、意見、要望が言い易い関係作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションをとるように心がけている。会議などでも意見を聞き、なるべく反映できるようにしている。	代表者、施設長は、現場職員からの意見や情報を把握し、よく話し合われている。職員からの提案で実施されている週1回の希望食の取り組みは、利用者からも喜ばれ、職員からも満足と意欲を引き出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い意見を聞き、スタッフの意識改革ができるように指導、援助に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会への参加を積極的に促している。また資格取得についてもスキルアップのため力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会にはなるべく参加し、他事業者との情報交換やネットワークづくりを行いサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えに傾聴したり、家族から情報収集をして本人が安心して生活していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に十分な面接を行い、家族の要望や不安を聞きながら、よりよいサービスの提供ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の要望を確認、把握しその人に合った必要なサービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から入居者の方と一緒にできること(洗濯物たたみ、畑での野菜の収穫と下ごしらえなど)は人生の先輩として教わりながらより良い関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には日々の様子や状態の変化などを報告し、必要な物品の購入などをお願いするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方の面会もあり、馴染みの人との関係継続ができています。家族の協力もあり、本人にがいきたい場所へ出かけられるような支援も行っている。	職員が付き添って、お墓参りに出かけたり、お孫さんの結婚式に出席したこともある。家族にお願いして、自宅に帰ったり、行きつけの美容院に行かれる方もおられ、住み慣れた地域社会での生活の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を理解し、トラブルのないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、医療機関や他施設へ面会に行ったり、家族からの相談にも対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、入居者の訴えを傾聴し、意見や要望にできるだけ応えられるように努めている。	希望食も毎回一人ひとりにお聞きして、記録し対応している。意思疎通が困難な方も、表情や、かすかな反応から汲み取る努力をしている。本人の視点に立って、その人らしく暮らしていけるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集し、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況は生活記録に記載し、スタッフ全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望をもとに話し合い、その意見を反映させながら介護計画を立てている。スタッフ全員でカンファレンスやモニタリングを行い作成するようにしている。	状況の変化があれば、その都度見直し、現状に即した介護計画になっている。職員全体で、よく話し合われ、丁寧に記録されている。担当の職員を決めることで、家族とのコミュニケーションが良くとれ、家族の思いや意見が聴き取り易くなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を記入する際は、実戦内容や結果を枠で囲ったり、色を変えるなどして工夫し見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居宅療養管理指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加した役場の方や地域住民の方との意見交換をし、入居者が地域の中で安心して暮らしていけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関および以前からのかかりつけ医への受診を、家族と協力しながら支援している。	毎週木曜日に、隣接する病院から往診に来てもらっている。緊急時にも対応してくれ、24時間の安心が得られている。かかりつけ医の受診に付き添う事もあり、医師、薬剤師、職員、家族で情報の共有を図りながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を把握し、特変時には報告、相談をし指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報提供を行い、スムーズな治療が行われるようにしている。病院関係者とは定期的に情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の説明を行い、施設でできる可能なケアについて十分な話し合いを行ってから同意を得ている。状態に変化があった場合には、その都度話し合いを行っている。	本人や家族の意志を確認しながら、医療機関と連携して取り組んでいる。利用者の重度化も顕著で、職員の研修にも力を入れている。本人の気持ちに寄り添う、安心して納得された介護をしながら、出来る最大の支援で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはマニュアルに基づいた対応ができるように勉強会を行い、実戦で活かせるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成しており、年2回の避難訓練を行っている。	9月、3月に消防署の協力を得て実施している。避難経路の確認や移動の方法など、指導してもらっている。心肺蘇生、心臓マッサージの指導も受けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、個々の思いを大切にしながら日々ケアに努めている。特に言葉かけには注意し努力している。	一人ひとりの尊厳と権利を守る姿勢は、事業所理念を短縮した「安心、安全、尊厳」という言葉で職員の中に浸透している。声のトーンや態度にも気を配り、対応している。守秘義務や、個人情報保護にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をくみ取りながら、できる限り支援できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、一人一人のペースに合わせた対応ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる人には、自分の好みで服をコーディネートしてもらい着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には業者に委託しているが、週に1回は利用者に食べたいものを聞き、献立を考えて一緒に作るようにしている。	希望食の日は、一緒に買い物に行ったり、できる事をお手伝いしてもらったりして、食事への関心を引き起こし、食事が楽しみなものとなっている。天気の良い日には、ウッドデッキで食事を楽しむ事もある。畑の旬の野菜も喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個人記録に毎回記録し、水分については食事以外でもまめに摂ってもらえるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。自分でできない人には、スタッフが介助し支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導介助を行っている。	便秘がちの方には、野菜ジュース、きなこ牛乳、きなこご飯など、食物繊維の多い物をとって頂くように工夫している。夜ポータブルトイレを使用する方もいる。習慣やパターンに応じた個別の排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を把握したうえで、こまめな水分補給を心掛けながら、便秘予防として食べ物や飲み物の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その日の気分により入浴可能なようにしている。	日中浴、夜間浴で対応し、一人ひとりの意向にそって、ゆっくりと入浴して頂いている。菖蒲湯やゆず湯、時にはバラの花を浮かべたりして、くつろいだ気分で入浴を楽しんでいる。重度の方には、二人体制でシャワー浴を安全に行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせ、休息や入眠ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつのケースに仕分けし管理している。ケース横には、処方薬、効能が書かれた表を設置することで、誰が見ても分かるように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやお膳拭きなど、できることは役割を持ってやっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに行事を行い、外出できる機会を設けたり、散歩や買い物と一緒に歩くようにしている。	住み慣れた地域での生活の継続として、積極的に取り組まれている。お花見やお祭りなど季節の行事や、気分転換を兼ねた散歩、買い物など普段の生活の中での外出支援が、本人の意向に添って進められている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で預かっている。本人希望で所持している方もいるが、紛失の場合も視野に入れ、家族の了解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられるようにしている。手紙などのやり取りもできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には表札を設置している。ホールには行事ごとに撮った写真を貼ったり、花を飾ったりして季節感を取り入れる工夫をしている。	広いウッドデッキに続くホールは、明るく開放的で、矢掛の町や山が見え、住み慣れた地域で暮らしていると実感される。居室前の表札は、ここに住んでいると意識され、自分の家として、安心した落ち着ける場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下には長椅子を設置し、誰とでも過ごせる空間づくりを提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や、位牌など持ち込んでもらい、その人らしい居室づくりができるよう工夫している。	大きな窓があり、明るく風通しがよい。行事の時に撮った写真や普段の生活の中での笑顔の写真が飾られている。日々の暮らしを確認したり、思い出したり、また、家族との楽しい会話の糸口にもなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには名札を設置し、見てわかりやすくしている。移動スペースにはなるべく障害物を置かないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372800189		
法人名	有限会社 フォーユー		
事業所名	グループホーム さくらの家		
所在地	岡山県小田郡矢掛町矢掛2532-1		
自己評価作成日	平成24年5月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3372800189&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成24年6月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が住み慣れた環境の下で、地域の伝統行事に参加、見学することで昔の記憶を呼び戻したり、季節の移り変わりを肌で感じ取れるよう、積極的に外出レクの機会を設け、気分転換や地域の方々との触れ合いを図っています。ホールから続くウッドデッキを活用し、天気の良い日には一緒に食事をしたり、お茶を飲んだりと開放的で明るい雰囲気作りにも力を入れています。ホール内では、音楽セラピーの一環として、オルゴール療法を取り入れ、精神安定を図りながら、日々の生活を支援しています。また、医療面においては、ご利用者様やご家族様が安心して日々の生活が送れるよう、隣接した協力病院との連携を図り、対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議やユニット会議などのミーティングの機会を設けて、理念を共有し実践できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事への参加や見学、施設行事での外出の際などに、地域の方々と触れ合ったり交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加したり、町主催の認知症サポーター養成講座に参加し地域の方々へ向けて理解を深められるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状態や活動報告、行事への参加などの報告をし、そこで出た意見や要望についてはスタッフ間で話し合い、サービスの向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡や書類の提出などの際に情報交換を行ったり、介護保険課の担当者にはいつでも相談援助していただくなど連携に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全管理委員会を設置し、定期的な会議や勉強会を行い理解を深めながらケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待防止についての理解を深めながら、日々実践できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加し理解を深めている。入居者様の中に成年後見人制度を利用されている方がおり、学べる機会を持つことができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文面を読みながら分かりやすい説明を心掛けている。疑問や不安に思われる点についても理解・納得がいくまで十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には近況報告を行い、その時に意見や要望も聞くようにしている。要望があれば会議などで話し合い反映させるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からスタッフとのコミュニケーションを図り、意見や要望を聞くようにしている。また管理者会議やユニット会議などでその意見が反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行ったり、指導、助言をその都度行っている。職員の家庭の事情なども考慮しながら勤務ができるように配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修会への参加や、報告会を行ったり、資格取得の為のスキルアップも積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所や町主催なども含め研修会にできるだけ参加することで、情報交換やネットワークづくりを行いサービスの質向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活歴や心身の状況などを把握し、本人の要望を聞きながら安心して生活が送れるように馴染みの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの不安や要望を聞き話し合いをしながら、より良い関係づくりやサービスの提供ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人および家族の要望を確認、把握しその人に合った必要なサービスを提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている機能を発揮してもらいながら、人生の先輩として日々の生活の中でいろいろ教えてもらったり一緒に作業しながら良い関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の状態報告をしたり、行事への参加を促すことで、本人と家族の絆を大切にできるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や近所の方などの面会もあり、馴染みの人との関係も継続できている。また地域行事へ参加したり、行きたい場所へ出かけられるように支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気軽に楽しく過ごせるような場面作りや、気の合う利用者同士で関わりが持てるような支援を心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、医療機関や他施設へ面会へ行ったり、家族からの相談にも随時対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話や表情から本人の思いや希望をくみ取るよう努力している。家族の協力を仰ぐこともある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集をし把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や関係者などから日々の生活のリズムや心身の状態を聞き、把握したり、生活記録へ記載することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望をもとに話し合い、その意見を反映させながら介護計画を立てている。スタッフ全員でカンファレンスやモニタリングを行い作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の状態や変化を記入すると共に、内容によっては色を変えたり枠で囲むなどして誰が見ても分かりやすい工夫をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居宅療養管理指導を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加した役場の方や地域住民の方々との情報交換をしながら、入所者が安心した暮らしができるように支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関および以前からのかかりつけ医への受診は継続している。また週1回、提携しているかかりつけ医の往診もいただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を把握し、特変時などには報告、相談をし指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時など医療機関へは必要な情報提供を行い、スムーズに治療が行われるようにしている。また病院関係者とは定期的に情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には十分な説明を行い理解をいただいている。状態に変化があった場合には、その都度家族や主治医と話し合いを行い、早急に対応できるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはマニュアルに基づいた対応ができるように勉強会を行い、実戦で活かせるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成しており、年2回の避難訓練を実施している。消防署、役場、地域住民の方にも参加していただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した対応を心掛けながらケアを行っている。特に言葉がけには注意しているがまだまだ十分ではない時もあるため、注意し努力していきたいと思う。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を聞き、できる限り自己決定や支援ができるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には日々の流れは決まっているが、心身の状況や、その日の体調に応じた個別対応をするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できない方にはスタッフがその人らしいコーディネートを考え支援している。2か月に1回は訪問理美容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には業者に委託しているが、週に1回は利用者に食べたいメニューを聞き、なるべく一緒に作るようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キザミ食やトロミの活用など個々にあわせた食事の支援を行っている。水分は食事以外にもこまめにとってもらえるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きや口腔ケアを行っている。できない方にはスタッフが介助し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態を把握し、声掛けや介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、できるだけ食事や水分で対応できるよう取り組んでいるが、便秘のひどい方には薬を使つてのコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その日の状態や気分に応じて別の日でも本人の希望により入浴できるようにしている。夜間浴も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活のリズムに合わせ、いつでも休息や入眠ができるようにしている。室温や環境にも配慮し安心感を持ってもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつのケースに分けて管理している。処方薬、効能を記載した表を設置し、誰が見ても分かるようにしている。状態や処方の内容に変化があった場合は連絡ノートに記載し活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやお膳拭きなど、主婦をしていた経験を生かし、役割を持ってやっていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事では戸外へ出かけられるよう計画を立てている。また買い物や散歩などを行ったり、家族の協力を得て、いつでも外出や外泊ができるように支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で管理しているが、希望に応じて買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけて話ができるようにしている。手紙やはがきなどのやり取りもいつでもできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には表札を設置している。ホールにはイベント時に撮った写真を貼ったり、花を飾ったりして居心地良く過ごしてもらえるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下には長椅子を設置し、いつでも気軽に誰とでも過ごせるような空間づくりを提供できるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、テレビや仏壇などを自由に持ち込んでいただき、その人らしい居心地のいい部屋作りになるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどには表札を設置し、見て分かる工夫をしている。環境整備にも努め、安全面の工夫に取り組んでいる。		